

チャイルドケアインターンシップ 体験談



高島愛さん(2011年5月に参加)

私は2011年5月9日～27日の3週間、WAPJ 紹介のインターナショナルスクールで実習をしました。

私は今年の3月まで幼稚園で勤めていましたが、オペアの夢を叶えるために退職し、帰国後は大好きな子ども達と英語の環境に触れることができるインターナショナルスクールで勤めたいという夢があります。

実習をするきっかけは、今年の8月にオペアとして渡米することが予定されており、アメリカへ行く前に英語の環境に慣れておきたかったことと、英語で子どもたちをどのように保育しているのかとても興味があったからです。

実習初めのころは、緊張で言葉がすぐに出てこず、笑顔でいることが精一杯でした。

しかし、先生方の子ども達への素敵な声掛けが耳に入るようになり、「私もあんな風に子どもたちに声をかけたい！」と強く思い、英語を話すように心がけました。

遊んでいる時や、ご飯を食べている時など、全ての子どもの発言に“どう話しかけるといいかな？”と考えてしまいますが、語学力がなくても自分が知っている英語でしっかり子どもの言葉に反応してあげることが一番だと感じました。

難しさを感じたところは、子ども同士の遊具の取り合いを英語で止めることができなかったことです。怪我のないよう日本語で対応してしまいましたが、英語で声を掛けてあげられていたらと悔しい気持ちになりました。そのようなことがあった時は、どのような声掛けがよかったか先生方にご指導して頂けるので、英語の表現をすぐに学べる素晴らしい環境だと思います。毎日英語のフレーズを学び、復習して次の日に使うようにしていました。

また、片付けや Morning session などの活動の展開にうたを歌うことで流れの良い保育に魅力を感じ、歌から英語をすぐに吸収できたように思います。手遊びやダンスもとてもユニークで、楽しみながら英語を学ぶことができました。その他、クラフトでは自然な素材を使った教材も面白く、私も子どもになつたつもりで一緒に楽しむことができました。

このような教材研究や、先生方からの海外情報、そしてネイティブの先生方とのコミュニケーションなど、私にとってプラスになることばかりでした。

特に印象的なことは、いつも“Thank you.”の気持ちがあることに感動しました。ネイティブの先生方と日本人の保育士さん、そして子ども達の中でも、何かあるたびに「Thank you.」という心が温くなる言葉があり、凄くいい気持ちになりました。

そして、子ども達には Good job!と褒めてあげるシーンが沢山あって、本当に子ども達が嬉しそうな表情をしていました。私もみんなが笑顔になれる素敵な言葉を掛けられるように心がけていきたいです。

最後に、私が今回のインターンシップで感じた英語習得は、先生の声掛けをリピートして話す、恥ずかしくない、覚えるまで紙に書くことです！何事にも前向きに失敗を恐れてはいけないなと思いました。そして、これからアメリカ生活に飛び込む私にとって、本当に勉強になる素晴らしい体験でした。オペアやインターナショナルスクールに興味があり、挑戦しようか悩んでいらっしゃる方は、是非挑戦して頂きたいと思います。私は、挑戦してみて後悔なくすべて自分の人生に役立つ体験ができましたよ！



飯嶋佑美さん

(2010年2月に参加)

私は以前から子どもの教育やチャイルドケアに関心があり、インドの小学校でボランティアを行ったことがあります。

しかし教育の知識もなければ子ども達と接した経験もほとんどなかったので、そのような知識や経験があればインドでの活動がもっと有意義なものになったのではないかと後悔していました。

そのため日本に帰国してから今後のために、日本で何か教育やチャイルドケアに携われるようなインターンシップやボランティアができないかとあれこれ探しているうちに、「インターナショナルスクールでインターンシップを行う」という今回の活動を見つけ、参加するに至りました。

大学の春休みを利用して一ヶ月間、プレスクールにて保育士さんが行っていることと同じことを体験させていただきました。具体的に挙げると、朝は教室の準備やおもちゃの消毒、子ども達がスクールにやってきたら一緒に遊び、食事やトイレのお世話などです。

インターンシップを始めたころは、2~3歳の小さな子ども達とどうやって接したらいいかがわからず戸惑うこともありました。母親と離れたくなくて泣きやまない子をどうやって泣き止ませるのか、なかなか言うことを聞いてくれない子にどうやって言い聞かせるかなど、わからないことやできないことが沢山ありましたが、保育士の先生方の接し方を参考に、子ども達と向き合いました。

とにかく「子ども達に怪我をさせない」ということを先生方に念を押されましたが、これは思った以上に大変なことでした。小さな子ども達の周りには危険がいっぱいで、私が思いもよらないことで怪我をさせてしまったりするからです。ご家族の大切なお子さんを預かっているので、普通の何倍以上もの注意力が必要なのだと感じました。

今回の体験で印象的だったのは、子ども達の様子を見て、着る服(自分でトイレをしやすい様な服)や子どもの成長に合わせたお弁当の中身、などの提案を保育士さんが保護者の方に行っていることでした。

とくに初めてのお子さんを持つご家庭にとっては、こうした保育士さんのアドバイスが非常に役に立つと思います。私もただ子どもと遊ぶだけでなく、子どもが出来るようになったことや成長したことなど小さな変化に目を配り、子どもの成長に合わせたケアができるようになりたいと思いました。

子ども達がプレスクールにいる時間はわずか4時間であつという間でしたが、本当に集中力と体力が必要な密度の濃いものでした。プレスクールでインターンシップを行うことは、チャイルドケアの経験を前もってできるというだけでなく、保育士さんのお手本をすぐそばで見学することができるので、これからオペアをやりたいと考えている人にとってもきっと役立つと思います。

私は今回の貴重な経験を活かし、将来は海外でチャイルドケアに挑戦することができたらと思っています。